

テモテへの手紙第二 2 章 20～26 節 罪から逃げなさい。

本日の聖書箇所はテモテへの手紙第二 2 章 20～26 節です。まず、この箇所を理解する鍵となる最初の 2 節を読んで行きましょう。2:20 **大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用いられます。21 ですから、だれでもこれらのことから離れて自分自身をきよめるなら、その人は尊いことに用いられる器となります。すなわち、聖なるものとされ、主人にとって役に立つもの、あらゆる良い働きに備えられたものとなるのです。**この聖書箇所にはいくつかの異なる理解の仕方がありますが、教会全体に当てはめて読むことも、個人に当てはめて読むこともできます。私自身は両方の解釈をすることがありますが、22～26 節とのつながりを踏まえると、「大きな家」を私たち一人ひとりの人生と捉えて読む方が、より適切だと思います。いずれの読み方をするにせよ、パウロは私たちに、美しいものに満ちた壮麗な館を思い描かせようとしているのです。さて、どんなに立派な館であっても、中にあるすべてのものが同じように美しいわけではありません。たとえばアメリカのホワイトハウスには、歴代の大統領の政権時代に使用された、美しい食器セット（ファインチャイナ）のコレクションがあります。それらは当時の大統領の名前で呼ばれており、たとえば 1950 年代後半のアイゼンハワーの食器セット、1880 年頃のヘイズの食器セット、1860 年代のリンカーンの食器セット、1980 年代のレーガンの食器セットなどがあります。これらのディナーセットは、私たちの 1 年間の年収を叩いても買えないような、非常に美しいものです。しかし、大統領や、日本の総理大臣、あるいは天皇陛下のような方であっても、時には私たちと同じように、ダイソーで売っているようなプラスチック容器に入れた食事を電子レンジで温めて食べることもあるでしょう。そのような容器は、パウロの時代における木製や陶器の器のように、使い捨てに近いものです。それでも、そうした高価な食器と安価な容器が、同じひとつの家の中に共に存在しているのです。先ほども述べたように、「**大きな家**」は、私たち自身の人生、そしてテモテの人生を指しています。パウロは、私たちの人生の目標は、家の中を壊れやすく使い捨ての器ではなく、美しく、立派で価値のある器で満たすこと、つまりそのように価値ある人生を歩むことだと語っています。

このような光景を思い描くとき、次に私たちが問うべきは、「私たちの人生における卑しいことに用いられる器とは何か？」ということになります。そして、今朝の聖書箇所である 22 節から 26 節の直前の文脈を読むと、「卑しいこと」とは私たちの罪のことだという答えが見えてきます。ですから、22 節から 26 節を読むとき、パウロが語っている真理とは、「**私たちが尊いことに用いられる器となるためには、私たちは罪から逃げなければならない！**」ということなのです。少し長くなりましたが、では 22 節から 26 節を見ていきましょう。22 **あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。23 愚かで無知な議論は、それが争いのもとであることを知っているのですから、避けなさい。24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍耐し、25 反対する人たちを柔和に教え導きなさい。神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。26 悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。**パウロは、私たちが神のために用いられる尊い器となるよう励まし、そのための方法を示しています。彼が語っているのは、私たちは罪から逃げなければならない、すなわち罪から走って離れるべきだという点です。ここで「罪」という言葉は直接使われていませんが、「義を追い求める」ということは「**若い時の情欲を避ける**」ことを意味しており、それらが罪であることを示しています。この箇所では、罪から逃げるための三つの鍵が示されています。まず、第一の鍵は、**自分の人生における罪の根本原因を認識すること**です。私たちは、罪の根源がサタンの偽りにあることを知っています。この箇所でも、パウロが「悪魔の罠」について語っていることから、それが分かります。サタンは私たちを誘惑し、神の御心や栄光からそれた行動をとるよう仕向けてきます。つまり、神の栄光を現さないこと、これこそが罪の定義なのです。ローマ人への手紙 3 章 23 節には、「**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません、**」と書かれています。罪は、私たちすべてに共通する問題です。神は私たちを御自身のかたちに似せて創られましたが、最初の人アダムを通して、私たちは皆、生まれながらにして罪に流されやすい性質を持つようになりました。どんなに努力しても、誰一人として罪のない人生を送ることはできないのです。なぜなら、私たちの基準は社会でも、自分自身の道徳でも、法律でもなく、神ご自身、すなわち神の御言葉に示された神の基準そのものだからです。神はこの罪の問題に対する解決策を、イエス・キリストのうちに与えてくださいました。キリストは私たちの身代わりとなって死に、私たちの罪に対する罰を受けてくださいました。私たちが自らの罪を悔い改め、イエス・キリストに立ち返るとき、私たちは罪を赦され、キリストの義を与えられるのです。しかし問題は残ります。私たちは依然として、自分の人生における罪との戦いを続けているのです。この戦いについて、パウロはローマ人への手紙の中で語っています。ローマ人への手紙 7 章 19-20 節には次のように語られています。

19 私は、したいと願う善を行わないで、したくない悪を行っています。 20 私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。

ですから、クリスチャンは今なお罪との戦いを続けていますが、その戦いは聖霊の力によってなされるという点が重要です。でも、覚えておいてほしいのは、これは実際に立ち向かって戦わなければならない戦いだということです。その戦いに勝つためには、罪から離れ、逃げる必要があるのです。そして罪から逃れるためには、まず自分がどのような場面で罪に陥りやすいのかをはっきりと理解しておく必要があります。この箇所では、私たちが罪に陥りやすくなる要因が二つ挙げられています。一つ目は「若い時の情欲」です。これについては、しばしば性的な罪として解釈されてきましたし、実際それも含まれるでしょう。しかし、これは性的な罪に限定されるものではなく、もっと広い意味を持っています。23 節から 25 節の文脈、すなわちパウロがテモテに「義と信仰と愛と平和を追い求めなさい」と命じていることを踏まえると、これはそうしたものと正反対のもの、すなわち義や信仰、愛、平和を妨げるような罪全般を指していると考えられます。言い換えれば、それは他人に対する不親切な態度や、愛のない言動、そして人との争いといったこと全般を指しているのです。私たちは、嘘をつくことや不倫、ポルノを見ることなどの罪は決して正当化しないかもしれませんが、それ以外の罪については、自分で言い訳をして見逃してしまうのです。そうすることで、私たちの霊的成長がまだ若く、未熟であることを表しています。怒りについても、「あの人のせいで腹が立った」と他人のせいにするのは簡単ですが、そういう言い訳をすることで、自分の怒りに対して責任を取ろうとはしません。私たちは本当の意味で、自分の心や思い、行動を吟味して、神を悲しませるようなものがどれほどあるのかを探ろうとしないのです。もしそれを真剣に行えば、自分の中にある罪がどれほど神を悲しませているかに気づくでしょう。だから私たちは、聖書を読んだり祈ったりといった「形」だけを守って満足し、自分の内面を深く見つめ、どこに罪が潜んでいるのか、何から逃れるべきかを真剣に探ろうとはしないのです。

私たちが罪から離れようとするときに、気をつけなければならないもう一つの罪の原因が、これらの聖句の中で示されています。23 節には次のように書かれています。愚かで無知な議論は、それが争いのもとであることを知っているのですから、避けなさい。また、24 節の初めにも、主のしもべが争ってははいけません。と述べられています。これ（議論すること）はある人たちにとって非常に大きな誘惑となり得ますし、正直に言えば、私自身にとっても誘惑です。議論好きな人にとっては、それが一種の楽しみになってしまうことがあります。特にインターネットの登場によって、匿名性が担保されることで、他人を批判したり議論に参加したりすることに、ほとんど責任を問われずに済むようになりました。では、なぜこうしたことがクリスチャンにとって問題となるのでしょうか。なぜパウロは、牧師であるテモテに対してわざわざこの点を指摘したのでしょうか。クリスチャンとして私たちは、「絶対的な真理」を信じているはずですし、実際に信じなければなりません。日本では、はっきりと意見を言うことが文化的にあまり好まれない傾向にあります。それでも聖書が「真実」だと語ることに對しては、私たちは明確に立場を取らなければなりません。聖書が語る真理を信じるということは、それと矛盾する他の主張を「真理ではない」と判断せざるを得ないということです。それは排他的に聞こえるかもしれませんが、信仰の立場としては必要な姿勢です。しかし、私たちが「真理に忠実でありたい」という思いを、聖書に書かれている明確な教えだけでなく、自分の解釈や、さらにその適用の仕方にまで広げてしまう時に、問題は起こります。そうすると、他のクリスチャンと意見が異なる場面で、単なる見解の違いを受け入れるのではなく、「自分の考えこそが正しい」と主張して、無理に同意を求めたり、言い争いになったりするのです。そして私たちは気づかないうちに、そうした議論にのめり込んでしまします。しかし、よく考えてみると、それらの多くは神の御言葉の本質に関わるような重大な問題ではありません。むしろ、愚かで知識に乏しい議論に過ぎないことがほとんどです。アメリカで始まった「Together for the Gospel（福音のために共に）」というカンファレンスは、こうした分裂の傾向に対する応答として生まれました。発起人は 4 人の牧師たち——9Marks の創設者で改革派バプテストのマーク・デヴァー、長老派のリゴン・ダンカン、カリスマ・改革派の C.J. マハニー（ソブリン・グレース教会）、そしてサザン・バプテスト神学校の学長であるアルバート・モラー（改革派バプテスト）です。彼らは、たとえ神学的に違いがあったとしても、イエス・キリストの福音を共通の土台として、互いに兄弟として一つになれることを示したいと願っていました。ところが今日、多くのクリスチャンはその精神を忘れ、ちょっとした違いにも過敏に反応し、意見の違う相手を責め立てることに夢中になってしまっています。私たちは、そのような姿勢に陥らないように自分自身を守らなければなりません。そして、それがまさに「罪」であることを正しく認識し、そこから逃れる必要があるのです。

でも、もし私たちが罪から逃れようとするのなら、一体どこへ向かえばいいのでしょうか？ただ罪をやめるだけでは十分ではありません。やめた後に、それに代わる何かで心を満たさなければ、やがて罪が戻ってきて、その隙間を埋めてしまうのです。このことは、[エペソ人への手紙 4 章 22 節と 24 節](#)にもはっきりと示されています。まず 21 節には、こう書かれています。[21 ただし、本当にあなたがたがキリストについて聞き、キリストにあって教えられているとすれば・・・22 その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、](#) 24 節に移ると、[24 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。](#)同じ考え方は、第二テモテへの手紙 2 章にも見られます。私たちは、ただ罪から逃げるだけではなく、それに代わってキリストを中心とした「義」で心を満たさなければなりません。ここで注目したいのは、聖書が二つの対比を示していることです。「これを避けなさい。そしてこれを追い求めなさい」。また「主のしもべは〇〇であってはならず、むしろ□□であるべきだ」と語っている点です。では、私たちは何を追い求めるのでしょうか？それは、[義と信仰と愛と平和、人に優しくする力、よく教える力、忍耐そして柔和に教え導く心](#)です。これこそが、私たちが罪の代わりに自分の内に満たすべきものです。私たちは、あまりにも簡単に罪に誘惑されてしまいますが、その罪から強く離れるのと同じ熱心さで、神から与えられるこれらの徳を追い求める必要があるのです。なぜなら、私たちは誰ひとりとして、自分の力で正しくあるうとしたり、善を選び取ったりすることができないからです。それらはすべて、神からの賜物として与えられるものなのです。[ローマ人への手紙 3 章 10 節](#)に書いてあるとおりです。「[義人はいない。一人もない](#)」またイザヤ書 64 章 6 節には、「[私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。](#)」と述べられています。しかし、私たちが自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として信仰によって受け入れるとき、私たちはキリストの義を与えられるのです。[ピリピ人への手紙 3 章 9 節](#)には次のように書かれています。[9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。](#)私たちが本当に神に喜ばれる良い行いを行うことができるのは、自分の力や善意によるのではなく、キリストご自身とその義を追い求めているときだけです。自分の正しさではなく、キリストの義を求めて歩むときにこそ、神に喜ばれる行動が実を結ぶのです。しかし、キリストを追い求めるということは、同時に罪を拒み、それから離れていくことを意味します。そして私たちは、信仰と神への信頼を日々深めていくことで、その道を歩んでいくのです。エペソ人への手紙 2 章は、私たちの信仰そのものも神から与えられたものであると教えています。ですから、信仰を強めたいときに、自分の内側に答えを求めるのではなく、神ご自身に目を向けていくことが求められるのです。エペソ人への手紙 2 章 8 節にはこのように書かれています。[8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。](#)自分の正しさにこだわるのではなく、キリストの義を信じて求めるとき、私たちは初めて、人を心から愛せるようになるのです。たとえ愛しにくい相手であっても、キリストにある信仰によって、私たちはその人をも愛せるように変えられていきます。そのとき私たちは、厳しく冷たく、赦しを知らず、自分の満足のために他人を犠牲にするようなこの世の中にあっても、平和をもたらし、親切に生きる者へと変えられていきます。クリスチャンとして私たちは、むしろ[エペソ人への手紙 4 章 32 節](#)の教え、「[互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。](#)」に従って生きることができるようになるのです。24～25 節に挙げられているもう一つのリストは、特に「[教え導く](#)」という記述が含まれていることから、牧会者や長老としての責任を担う人々に向けられた内容であることがわかります。「[教え導く](#)」力は、第一テモテの手紙 2 章において、長老の資格を特徴づける要件の一つとして明記されており、執事の資格とは明確に区別されています。ただし、「争わない者であること」とは、自分の信念や立場を持たないという意味ではありません。むしろ、しっかりとした信念を持ちながらも、それを他の人に伝える際に、柔和な心と忍耐をもって語るということです。たとえその教えが、クリスチャンを名乗る人々からさえ攻撃を受けるようなものであったとしても、なおも忍耐をもって応じる姿勢が求められています。教会が長老を選ぶ際には、確かな信念を持ちつつ、自分と意見を異にする人や、敵対的な態度を取る人に対しても、正しく導くことのできる人物を選ぶべきです。

私たちには、自分の力だけで罪から逃れ、義を追い求めることなどできないということは、すでに見てきました。では、どうすればよいのでしょうか？それは、罪に打ち勝つために神の力に頼ることです。その真理は、柔和な心で相手に語りかけるとき、相手にも変化が起こることからも見て取れます。25 節には、「[神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません](#)」と書かれています。罪から離れ、義に向かって歩んでいくことは、最終的には自分の力ではなく、神が私たちのうちに働いてくださることによって可能になるのです。もし、自分の意志の力や新しい習慣だけで罪に打ち勝てる

と考えているなら、それは大きな誤りです。あなたは必ずつまづきます。第一コリント 10 章 12 節には、「12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい」と書かれています。しかし、13 節では、私たちの努力だけでなく、神ご自身が私たちのために働いてくださることを、改めて思い起こさせてくれます。13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。神が私たちに力を与えてくださる方法の中で、しばしば見落とされがちなものの一つが、教会の存在です。第二テモテへの手紙 2 章 22 節には、「あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、」とあります。つまり、信仰の仲間と共に歩むことが、罪から逃れ、聖さを追い求めるための大きな力になるのです。クリスチャンとしての信仰生活は、本来ひとりで歩むようには造られていません。神は私たちに地元の教会という共同体を与え、罪に立ち向かうために必要な助けや支えを備えてくださっています。教会を通じて、ともに歩む仲間からの愛に満ちた励ましや、信仰を正しく保つための導き、必要に応じたやさしい戒めなどが与えられるのです。そして、キリストのからだなる教会の中でこそ、神の御言葉の体系的な教えと説教、また長老たちだけでなく他の信仰の兄弟姉妹から与えられる聖書的な助言を通して、私たちは、罪を手放したあとにどう生きるべきか、神が望んでおられる道を知ることができるのです。ですから、もしあなたが同じ罪につまづき続けていると感じるなら、自分の生活を振り返ってみてください。そして問いかけてみましょう。私は本当にその罪から逃げるために何か行動を起こしているだろうか？スマートフォンに入っているアプリの中で、ブロックすべきものはないだろうか？自分が誘惑に対して無防備になりやすいと分かっている状況に、わざわざ身を置いてはいないだろうか？その人を愛することは大切でも、一緒にいると罪に流されやすくなるなら、しばらく距離を置くことも考えるべきかもしれません。そして、罪の代わりに何を追い求めているのかを考えてみてください。神の栄光ではなく、この世の快樂を求めているはいないでしょうか？かつて罪に用いていた時間を、今は神の御言葉に親しむことのために使っているでしょうか？そして最後に、あなたはキリストのからだである教会の交わりの中で、神が与えてくださる力に支えられながら、その義を追い求めて歩んでいるでしょうか？希望はあります。たとえ何度も罪に負けてしまったとしても、逃れる道はあるのです。罪を悔い改めて神のもとに立ち返るとき――それが初めてであっても、千回目であっても、私たちが罪を悔い改めてキリストに従おうと神のもとに立ち返るなら、神は変わることなく、同じ恵みと憐れみをもって迎えてくださるのです。それは、26 節に、「悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その罠を逃れるかもしれません。」と書かれている通りなのです。罪から逃れるために、イエスのもとに立ち返り、主の救いと力を信頼しましょう。そして、キリストにある兄弟姉妹を見つけ、お互いに責任を持ち合い、聖霊の力によって励まし合う関係を築いてください。たとえ今、どれほど罪や悪しき者にとらわれていると感じていたとしても、サタンはすでに打ち破られており、必ず逃れる道はあるのです。それでは、祈りましょう。

2Timothy 2:20-26 Run Away From Sin

Today's passage is 2Timothy 2:20-26, and I want to start right away by reading the first two verses that set the stage for the rest of the passage. Those verses read, **20 Now in a great house there are not only vessels of gold and silver but also of wood and clay, some for honorable use, some for dishonorable. 21 Therefore, if anyone cleanses himself from what is dishonorable, he will be a vessel for honorable use, set apart as holy, useful to the master of the house, ready for every good work.** There are a couple different ways to understand these verses and see them apply to the church or to the individual. I tend to see them both ways, but in how they connect with verses 22-26, they seem to focus on seeing the "great house" as our individual life. Either way you look at it, Paul wants us to picture a beautiful mansion filled with beautiful things. Now, even in a mansion, not everything in it is as beautiful as everything else in it. For the US White house, there are many collections of fine china associated with different Presidential administrations. They are known by the names of the President at that time. So, there is an Eisenhower service dating to the late 1950's, Hayes service dating to around 1880, a Lincoln service dating to the 1860's and a Reagan service that dates to the 1980's and others. Now each of those china dining sets are worth probably more than any of us make in a year, and are very beautiful. But when the President or someone like the Japanese Prime Minister or even the Emperor (Tenno Heika) eat, I am sure there are many times just like the rest of us that they eat something out of a Daiso quality plastic container warmed up in a microwave. That container is pretty much disposable, like wood or clay from the time of Paul. Both exist in that same house. As I said before that "great house" in its individual application is our life and Timothy's life. Paul says that our goal should be to have a life that has all the beautiful perfect expensive vessels and not the disposable, plain and even broken vessels inside of us.

With that picture in mind, the question becomes what in our lives would be these vessels for dishonorable use? Given the context that comes immediately in the next verses that is our text for today, verses 22-26, the answer to that question is that the "dishonorable" things are sin. So as we read these verses 22-26, we see the truth that Paul is stating that **to be an honorable vessel, we must run away from sin!** With that rather long lead in, let's look now at verses **22-26. 22 So flee youthful passions and pursue righteousness, faith, love, and peace, along with those who call on the Lord from a pure heart. 23 Have nothing to do with foolish, ignorant controversies; you know that they breed quarrels. 24 And the Lord's servant[a] must not be quarrelsome but kind to everyone, able to teach, patiently enduring evil, 25 correcting his opponents with gentleness. God may perhaps grant them repentance leading to a knowledge of the truth, 26 and they may come to their senses and escape from the snare of the devil, after being captured by him to do his will.** Paul encourages us to be an honorable vessel for God's use, then gives us the way to do that. And what he says is that we flee, we run away, from sin. The word in isn't mentioned, but pursuing righteousness means turning from youthful passions, which must make them sin. In this passage, we see three keys to running away from sin. **It starts with first recognizing the root causes of sin in our lives.** Now, we know the source of sin is Satan's lies. We see that in this passage when Paul talks about the snare of the devil. Satan seeks through temptation to get us to do things that are against God's will and desires and out of line with his glory. That is the definition of sin, not bringing glory to God. **Romans 3:23 says that all of us have sinned and fall short of the glory of God.** Sin is a universal problem that we all have. Although God created all of us in his image, through the first man Adam all of us are

now born with a nature and bent to sin. None of us no matter how hard we try can live in a sin free way, because our standard is God himself, not society, not our own morals, not legal codes, but God's standards as laid out in God's Word. God himself provided the solution to the problem of sin in Jesus Christ who died in our place and took the punishment for our sin. When we repent of our sin and turn to Jesus Christ, we are forgiven for our sin and given Christ's righteousness. But there is a problem, because we still battle the sin in our lives. Paul describes that battle in the book of Romans.

Romans 7:19-20 says, 19 For I do not do the good I want, but the evil I do not want is what I keep on doing. 20 Now if I do what I do not want, it is no longer I who do it, but sin that dwells within me.

So, Christians continue to battle sin, but that battle is now with the strength of the Holy Spirit. But understand it is a battle that must be waged and in order to fight that battle that must be fought, we have to flee and run away from that sin. But in order to do that, we have to be clear in all the places we are vulnerable to that sin in order to run away from it. In this passage, there are two places listed that make us vulnerable to sin. The first is youthful passions. Many times, this has been interpreted as sexual sin, and of course it surely includes that. But this is not simply sin that falls into that category; it is broader than that. When we look at the context of verses 23-25 and the things Timothy is told he should pursue **righteousness, faith, love, and peace...** this seems to imply sins that would be things that would lead to the opposite of those. In other words, unkindness towards others, unloving actions and words, quarreling with others. Even when we would never justify such sins as lying or adultery or pornography use, we excuse other sins and thereby show that we are still **youthful** and immature in our spiritual growth. It's so easy to say that someone made me mad instead of taking responsibility for our anger. We really don't search our hearts and thoughts and actions for everything that may bring dishonor to God. To do so would cause us to see just how deeply we actually grieve God with the amount of sin in our lives, so we are content to just go through the motions of Bible reading and prayer, but never look deep enough within ourselves to seek out where our sin is and what we need to run away from.

There is a second source shown in these verses for sin in our lives that we must be aware of as we try to run away from sin. Verse 23 says, **23 Have nothing to do with foolish, ignorant controversies.** And this goes along with the beginning of verse 24, **And the Lord's servant must not be quarrelsome.** This can be such a big temptation for some people, and to be honest, a temptation for me. Arguing for too many of us can become a loved pasttime. Especially with the internet, and the anonymity that it provides, we can engage in arguments and criticism of others with little accountability. Now, why would this be a problem for Christians, to the point that Paul would point this out to a pastor. As Christians, we believe, or we absolutely should believe in absolute truth. In Japan its not the cultural norm to be that direct, but we must hold to certain absolutes that the Bible declares to be true, which makes other truth claims false. That in itself is not bad...in fact it is necessary. But what happens when we take that commitment to truth and move it beyond the clear teaching of scripture to our interpretation of this book or even further away, the application of that Scripture. We can easily move from disagreement with other Christians over interpretation or application to being quarrelsome and argumentative just for the sake of demanding agreement with what I believe to be right. And when it comes right down to it, many of these disagreements are really just foolish ignorant controversies, rather than clear stands on the truth of

God's Word. The desire to have fellowship around the gospel while still holding to important distinctions of belief was what led to the original Together for the Gospel Conference in America. It started with 4 men, Mark Dever, the founder of 9Marks and a Reformed Baptist; Ligon Duncan, a Presbyterian, C.J Mahaney of Sovereign Grace, that are charismatic and Reformed, and Albert Mohler, Reformed Baptist, President of Southern Baptist Theological Seminary. They wanted to show that you could disagree as Christian brothers on some core theological distinctives and yet unite on the centrality of the gospel of Jesus Christ. Today, many Christians have forgotten that truth, and would rather focus on divisively attacking anyone who disagrees with them on even the smallest detail. We must guard our lives and run away from that temptation and call it what it is – sin.

But if we are flee or run away from sin, what are we running towards? It is not enough to just stop the sin; we must replace it with something else or it will return and fill the void. We can see this in [Ephesians 4:22 and 24](#). Verse 21 says [you heard and were taught...verse 22, to put off your old self, which belongs to your former manner of life and is corrupt through deceitful desires](#), and verse 24 [and to put on the new self, created after the likeness of God in true righteousness and holiness](#). The same idea appears here in 2Timothy 2. **We must not just flee from sin, we must replace sin with Christ centered righteousness**. Notice these verses show two contrasts. **Flee** this...**pursue** this. And the Lord's servant **must not be X...But Y**. And what are we to pursue? **Righteousness, faith, love, peace, kind, able to teach, patient in enduring evil, gently correcting**. This is what we fill our lives with instead of sin, that we are so easily tempted to give into. Just as strongly as we run away from sin, we run towards and pursue the opposite, which are those things that can only come as a gift from God. None of us are righteous and able to choose good or righteousness on our own. [Romans 3:10](#) tells us, as it is written: ["None is righteous, no, not one"](#). And [Isaiah 64:6](#) tells us that ["all our righteous deeds are like a polluted garment..."](#) But when we repent of our sin and accept Jesus Christ by faith as Lord and Savior, then we are given his righteousness. [Philippians 3:9](#) says, [and be found in him, not having a righteousness of my own that comes from the law, but that which comes through faith in Christ, the righteousness from God that depends on faith](#)— Only when we are pursuing Christ and his righteousness, not our own goodness, can we truly do actions that are counted as good. But to pursue Christ means we reject sin and running away from it. And we do this by growing our faith and trust in him. And Ephesians 2 tells us that our faith comes from God, so we don't look within ourselves even to strengthen our faith...we look to God! [Ephesians 2:8](#) says, [For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God...](#) It is out of the heart of faith, seeking Christ's righteousness not our own that we are able to love others, including those who are unlovable, as Christ tells us. We then become people of peace and kindness in a world that can be hard and rigid and unforgiving and seeking self-fulfillment at the expense of other people. Instead, as Christians we are seeking to obey [Ephesians 4:32, Be kind to one another, tenderhearted, forgiving one another, as God in Christ forgave you](#). The other list in verses 24-25 do seem to be more directed at those with pastoral and elder responsibilities, especially since it includes the description of **able to teach**. This was the standard for Elders, that set their qualifications apart from the qualification for Deacons in 1Timothy 2. It should be noted that to not be quarrelsome does not mean that you won't draw lines and have convictions. It does mean that the way you teach those convictions is with gentleness and patience, even if it is patiently enduring the evil

attacks that come your way, sometimes by even those who claim to be Christians. As you as the church choose Elders, you need to choose men of conviction, but also men who rightly shepherd others who disagree with them and even attack them.

We've already seen that we don't have the power within ourselves to flee sin and pursue righteousness. So how do we do this? **We must rely on God's power to overcome sin.** We see this truth in how changes come even in those we confront with a gentle spirit. Verse 25 says, **God may perhaps grant them repentance...** Repentance and the ongoing work of turning from sin and pursuing righteousness are ultimately God's work in us. If you think you can defeat sin through willpower or new habits alone, you will fail!

1 Corinthians 10:12 tells us, **12 Therefore let anyone who thinks that he stands take heed lest he fall.** But then goes on to remind us of God's work on our behalf in verse 13... **13 No temptation has overtaken you that is not common to man. God is faithful, and he will not let you be tempted beyond your ability, but with the temptation he will also provide the way of escape, that you may be able to endure it.** Another overlooked way God empowers us is through the church. In **2 Timothy 2:22**, we're told to **flee youthful passions ...along with those who call on the Lord from a pure heart.** There is strength in spiritual community. The Christian life was never meant to be lived alone. God uses the local church to provide the accountability, loving encouragement, and correction we need to resist sin and pursue holiness. And it is in the Body of Christ, where we are under the systematic teaching and preaching of the Word of God and the Biblical counsel provided by not only Elders but other brothers and sisters in Christ to know what it is that God wants us to replace the sin in our lives with. So, if you find yourself falling time after time to the same sin, look at your life and see what am I doing to run away from that sin. Are there are apps on my phone that need to be blocked? Are there situations that I know will cause me to be more open to that temptation, so I need to not put myself in those situations? Are there people that I may need to love, but also avoid because I have a difficult time seeking righteousness when I am with them? And then what are you pursuing instead of sin? Is it the pleasures of life rather than the glory of God? Have you been regularly taking in more of the Word of God during the time you would have devoted to that sin? Finally, are you active in the Body of Christ, seeking his righteousness through the strength provided by participation in the church? There is hope...There is escape, even after we have given into sin time and time again. And whether it's the first time or the thousandth time that we turn to God in repentance for our sin and asking for the faith to follow Christ, the end is the same as verse 26 reads, **26 and they may come to their senses and escape from the snare of the devil, after being captured by him to do his will.** Run away from sin by turning to Jesus and trusting in him for deliverance and strength. Seek out a brother or sister in Christ to hold each other accountable and strengthen each other by the Holy Spirit's power through that relationship. No matter how captured you are by sin and devil, he is defeated and there is escape. Let's pray.